

哲学堂公園再生整備基本設計(案)及び学習展示施設基本設計(案)について

哲学堂公園再生整備基本計画に基づき、哲学堂公園再生整備基本設計(案)及び学習展示施設基本設計(案)を取りまとめたので報告する。

1. 哲学堂公園再生整備基本設計(案)

- ・哲学堂公園再生整備基本設計(案)(別添資料1)参照

2. 学習展示施設基本設計(案)

- ・哲学堂公園学習展示施設基本設計(案)(別添資料2)参照

3. 今後の予定

平成30年 2月 基本設計(案)説明会・意見交換会

- ・公園再整備

平成30年 7月 公園再生整備工事着手

平成31年度末 竣工

- ・学習展示施設整備

平成30年12月 学習展示施設整備工事着手

平成31年度末 竣工

- ☆全域における整備
- 園路整備
- ・劣化園路の改修
- ・柵・手摺設置、改修
- 主要エントランス整備
- （部）
- ・自然石舗装
- ・格子柵門扉
- ・園名標
- ・総合案内板
- ・解説板
- ・常緑樹の整理
- 劣化施設、景観阻害施設の改修
- 照明、ベンチ、柵
- サイン整備
- ・解説、デザイン改善
- ・多言語対応

- ◎アプローチゾーン
- 入口から文化財庭園ゾーンへ誘導するとともに、運動施設との空間分離の役割を果たす。
- 桜並木アプローチの整備
- 正面口アプローチの整備

- ◎学習展示施設ゾーン
- 哲学堂公園のイメージに調和した学習展示施設の新設と庭園、77場へのアプローチの整備
- 学習展示施設整備
- 前庭の整備
- アプローチの整備

- ◎児童遊園ゾーン
- 児童遊園の再配置、機能維持
- 児童遊園の改修

- ◎周辺庭園ゾーン＜つつじ園・菖蒲池＞
- つつじ園は丘上からの眺望を意識した樹木整理と修景植栽
- 菖蒲池は菖蒲をはじめとした植栽による水景の改善
- つつじ園の改修
- 菖蒲池の改修
- サクラの維持、更新
- 周辺部の整備

- ◎周辺庭園ゾーン（さくらの広場）
- サクラによる魅力を高めるとともに、四季を通じて楽しめる明るい空間とする。
- サクラの維持、更新
- 周辺部（中野通り側、法面側）の整備

- 妙正寺川事業センター跡地
- 観光車輛駐車場
- ※中型級（30人乗）×3台程度

- ◎周辺庭園ゾーン＜哲学の庭・梅林＞
- 「哲学の庭」は良好な景観を維持し、活用を目指す。解説や情報提供の充実
- 入口のサイン整備
- 哲学の庭のサイン整備

- ◎文化財庭園ゾーン
- 保存管理計画に基づく構成要素の復元と景観の復元を行う。
- 七十七場案内サインの整備
- 入口区の整備
- 時空岡区（古建築物の広場）の景観回復
- 斜面地区、三祖苑区（西側樹林）、論理域区の樹木整理
- 妙正寺川沿い樹木の整理
- 心字池の景観回復
- 富士山橋の塗り替え



凡例	施設	数量
	既存樹木	
	新植樹木	
	既存サクラ	
	新植サクラ	
	自然石舗装	約1500㎡
	コンクリート系ブロック舗装	約1200㎡
	As舗装	約650㎡
	ダスト舗装	約1000㎡
	土系舗装	約6000㎡
	格子柵	約200m
	生垣	約300m
	トイレ新設	1箇所
	ベンチ	30基
	野外卓	5基
	園名標	6基
	総合案内板	6基



さくらの広場の整備

○サクラの維持、更新

- ・サクラの健全度を把握した上でさくらの広場の継続を図るために必要なサクラの更新（伐採・補植）を行う。
- ・既存サクラの根元の保護を行う。

○周辺部の整備

- ◆様々な魅力をもつ広場として景観の向上を目指す。
- ・フェンス沿いや斜面地側の常緑樹を整理しサクラや葉広葉樹を新植し、鑑賞範囲を広げるとともに、中通りとのサクラの連続性を持たせる。また、サクラ樹種を広げ、多様なサクラを楽しめるようにする
- ・落葉広葉樹や低木・地被類の補植により、春以外の節にも楽しめる広場とする。
- ・中野通り沿いの外周フェンスは、格子柵など落ち着いたイメージの柵に変更する。
- ・ベンチなど休憩施設を配置する。

哲学の庭・梅林の整備

○入口のサイン整備

- ・園名標、総合案内板を設置する。

○哲学の庭のサイン整備

- ・作品、作者、彫像の人物など、哲学の庭を紹介するサインを設置する。



さくらの広場の整備イメージ

周辺庭園ゾーン＜つツジ園・菖蒲池＞

つツジ園・菖蒲池の整備

○つツジ園の改修

◆魅力の向上

- ・丘上からの見通しの確保のため、過大になったツツジの間引きや、刈込み、植え替えを行い、つツジ園としての魅力を向上させる。
- ・複数種のサクラ新植や春以外も楽しめる花の株物や地被類などを新たに加える。

○菖蒲池の改修

◆水景を中心とした景観整備

- ・菖蒲の補植を中心に、池と水際の植物の景観を回復する。
- ・水景設備の改修により水質の向上を図る。
- ・シダレザクラなどの補植により、周辺を含めた景観の魅力を向上する。

○サクラの維持、更新

- ・さくらの広場と同様にサクラの更新（伐採・補植）を行う。

○周辺部の整備

- ・鬱蒼とした周辺部の常緑樹を整理し、落葉広葉樹を補植することで明るい植栽とするとともに、低木や地被類の補植を行う。
- ・哲学通り沿いの外周フェンスは、格子柵など落ち着いたイメージの柵に変更する。

文化財庭園ゾーンの整備

○七十七場の案内サイン整備

- ・七十七場について解説するサインや巡回ルートを案内するサインを設置する。

○入口区の整備

◆管理棟跡地の整備

- ・前庭、アプローチから連続性を持たせ、明るい庭園広場として整備し滞留空間とする。
- ・テニスコートとの遮蔽と広場を形成する植栽地を設ける。

◆植栽景観の向上

- ・古建築物への見通しを回復するため、樹木の整理を行う。
- ・石碑や七十七場が引き立つように植栽の配置を整える。

○時空岡区（古建築物の広場）の景観回復

◆文化財建築物を中心とした景観の回復

- ・創建当時の建物を中心とした景観を回復するため、阻害要因となっている樹木は剪定・除去を行う。
- ・三学亭の丘陵部の植栽を整理し創建時の姿を復元する。

○斜面地区・三祖苑区（西側樹林）・論理域区の樹木整備

◆過剰繁茂した樹木の整理

- ・文化財施設・園路・階段・土留め・擁壁に影響を与える樹木や危険な樹木は伐採等の処置を行う。
- ・高台からの眺望や見通しを遮る樹木は剪定や伐採などにより整理する。
- ・三祖苑周辺などは明るさ、広がり確保するための樹木整理を行う。

○妙正寺川沿いの樹木整理

○心字池の景観回復

- ・鬱蒼とした常緑樹を整理し落葉広葉樹を補植することで明るい水景とする。
- ・水景施設を改修し水質の改善を図る。

○富士山橋

- ・富士山橋は景観に配慮した色に塗り替える。



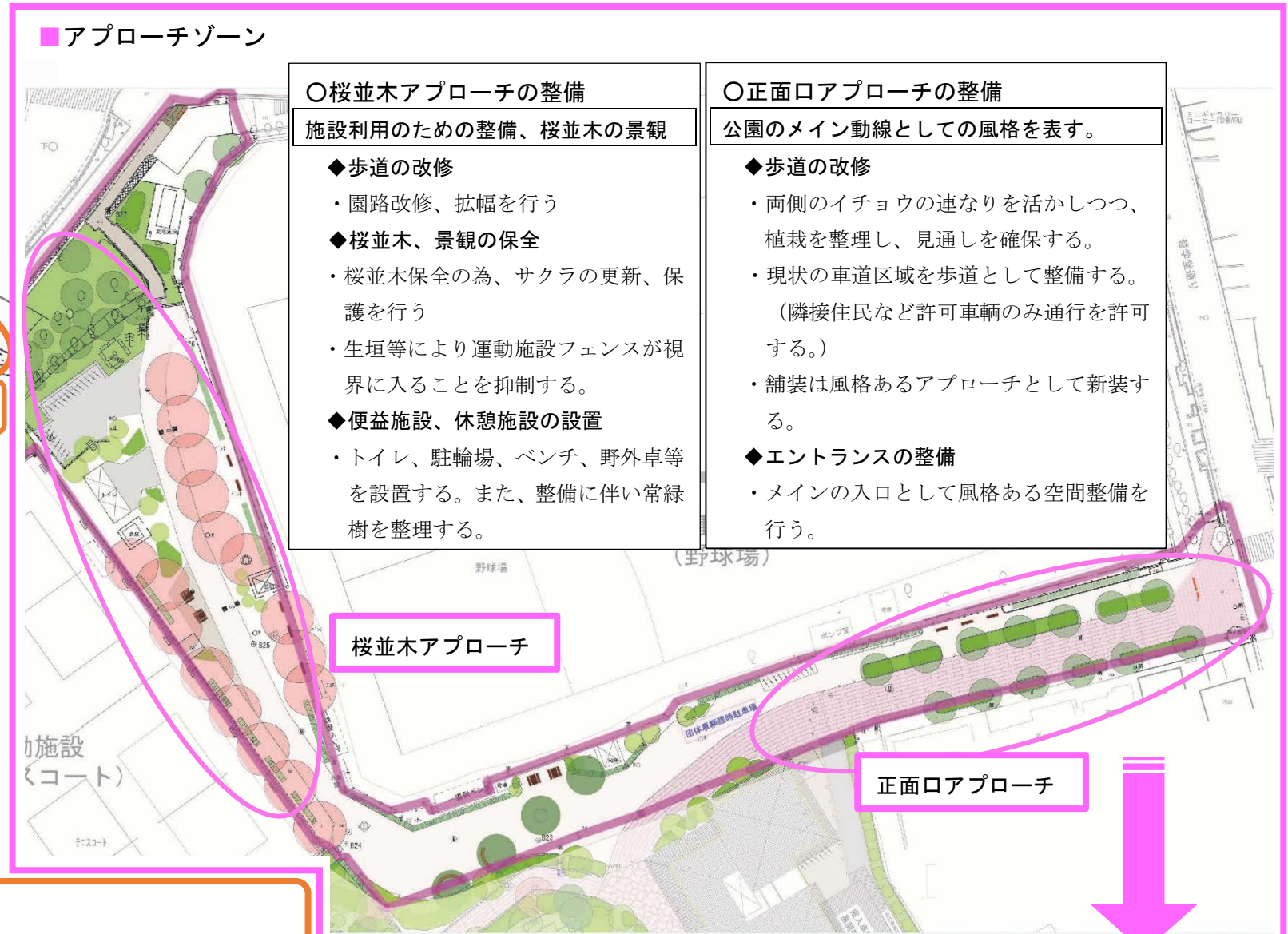
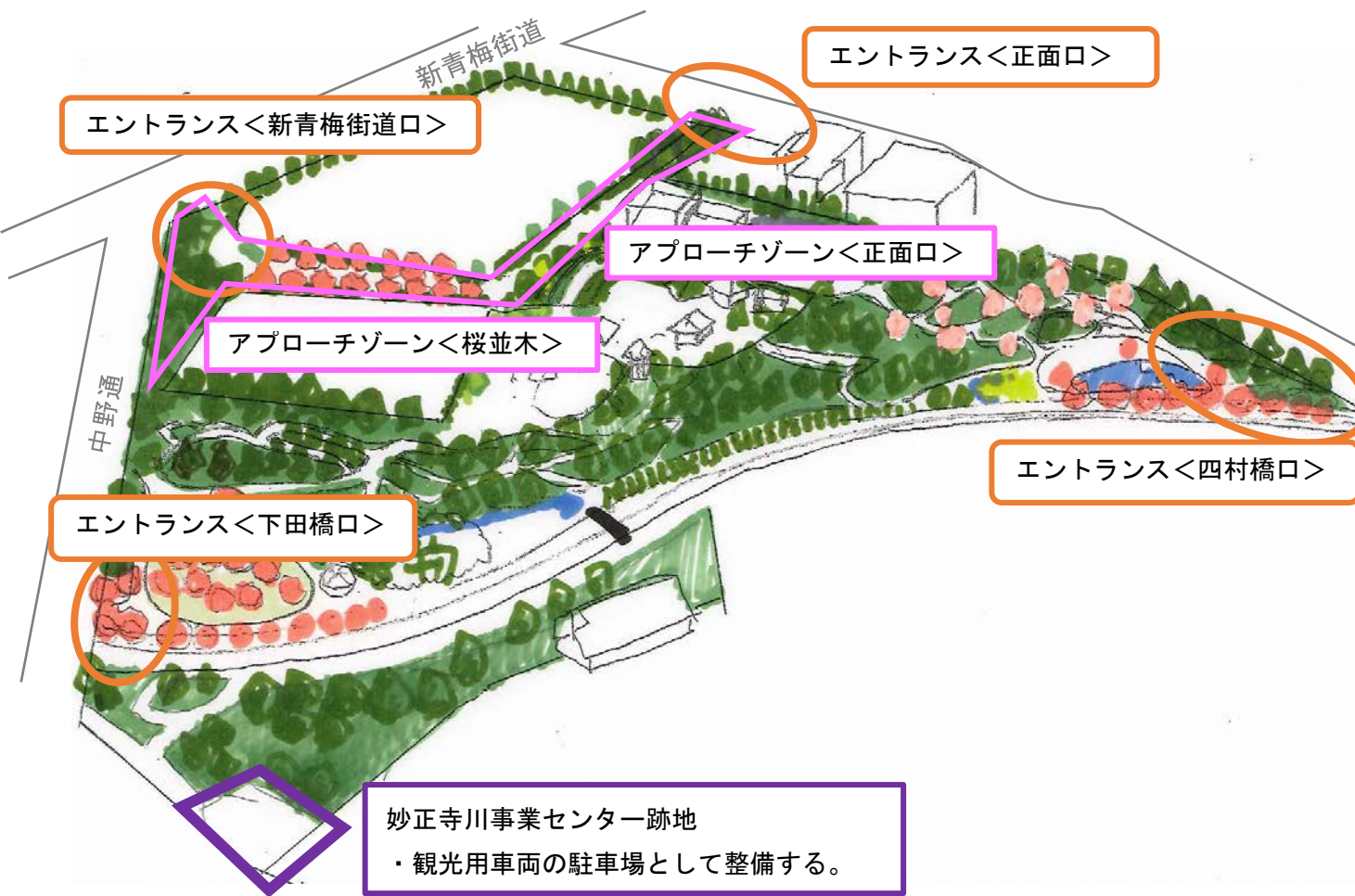
入口区の整備イメージ



文化財建造物遮蔽する樹木



園路に影響を与える樹木



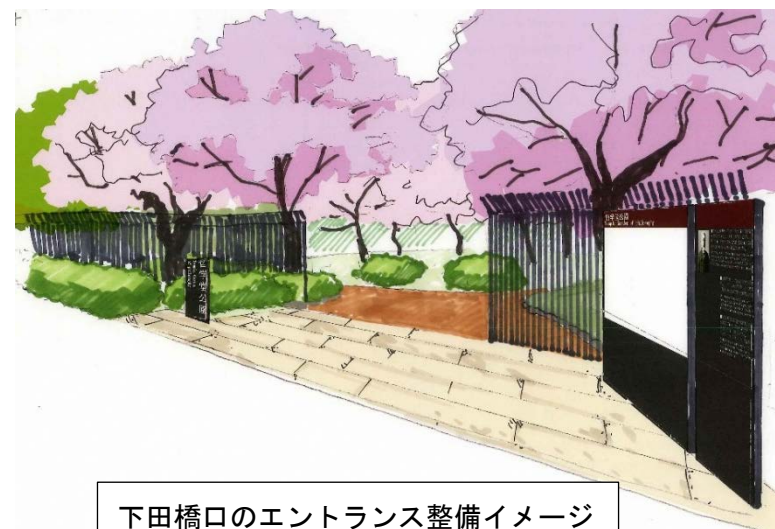
■ エントランス整備

○各エントランス周辺

- ・哲学堂公園のテーマ性を伝えるような園名標、総合案内板を設置する。デザインはシンプルなものとし表記は多言語に対応するものとする。
- ・石張り舗装とし、風格を表現する。
- ・古くなった門、柵は改修し、シンプルながらも落ち着きのあるものとする。
- ・過密、過大になった常緑樹中心の植栽帯は剪定や、落葉広葉樹への植替えによる整理を行い、エントランス周囲の明るさと開放感を確保する。



新青梅街道口のエントランス整備イメージ



下田橋口のエントランス整備イメージ



正面口のエントランスからアプローチの整備イメージ

○アプローチ

- ◆前庭から文化財庭園ゾーンへのアプローチ。
植栽帯により運動施設との空間分離と落ち着いた空間づくりを図る。
- ・高木、低木、地被類
- ・自然石舗装

○学習展示施設ゾーン

- ・学習展示機能
紹介、展示、教育、研修
サービス、休憩
- ・運動施設利用
受付、更衣室
- ・管理運営機能

○児童遊園ゾーン —1180㎡

- ・複合遊具(幼児用)
- ・健康遊具
※例：ぶら下がり、ツイスト、
ストレッチベンチ、など
- ・ベンチ
- ・藤棚（樹木を活用）

例) 複合遊具



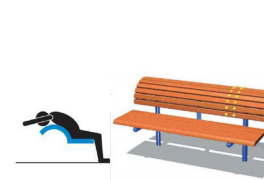
例) ぶら下がり



例) ツイスト

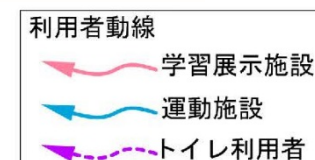


例) ストレッチベンチ



※入口区

- ・解説サイン(多言語対応)
- ・ベンチ、野外卓
- ・自然石舗装
- ・庭園風植栽整備

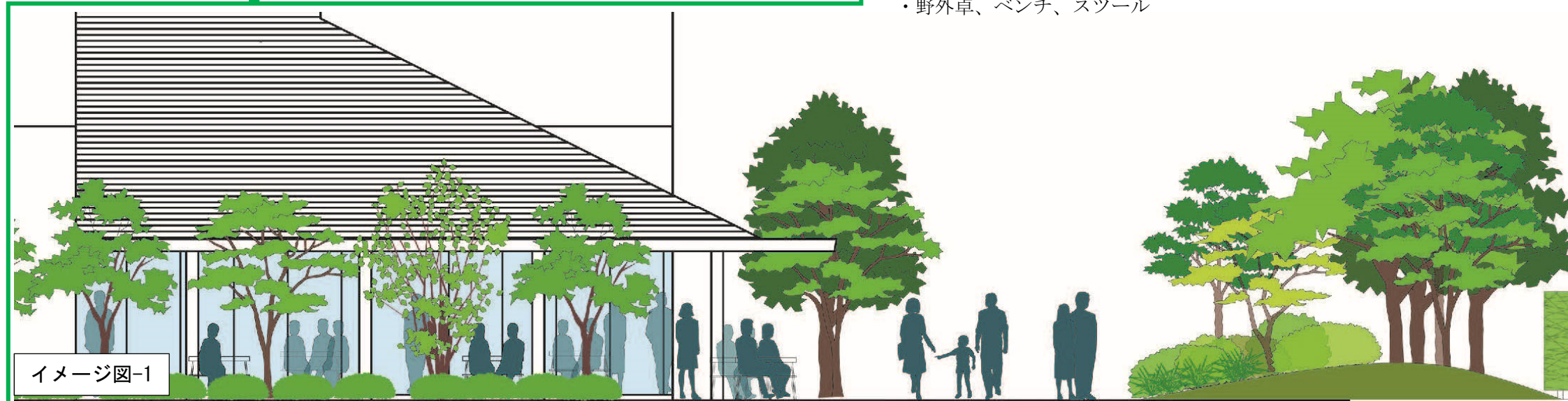


○前庭 —370㎡

- ◆学習展示施設利用者と文化財庭園ゾーン利用者が滞留できる空間とする。
- ・高木、低木、地被類
- ・自然石舗装
- ・野外卓、ベンチ、スツール



イメージ図-2



イメージ図-1

■ 建築概要

計画地	: 中野区哲学堂公園	建築面積	: 739㎡
住所	: 中野区松が丘一丁目34番	延べ面積	: 1,174㎡
敷地面積	: 約47,811.14㎡	容積対象面積	: 1,174㎡
都市計画区域	: 都市計画区域 市街化区域	建物高さ	: 約 9.7m
用途地域	: 第1種低層住居専用		
容積率	: 150%		
建ぺい率	: 60%		
防火地域	: 準防火地域		
工事種別	: 新築		
主要用途	: 公園資料館		
高度地区	: 第1種高度地域		

2階	: 495㎡
1階	: 679㎡
合計	: 1,174㎡

■ 所用諸室一覧

用途	階数	室名	基本設計面積	機能、利用目的	用途	階数	室名	基本設計面積	機能、利用目的	階数	各階面積
公園資料館	2階	ホール	約 25 ㎡	利用者の人だまり、休憩スペース。	公園管理事務所	2階	公園ロビー	約 25 ㎡	運動施設利用者の受付、待合場所。	2階	495 ㎡
		学習室1	約 98 ㎡	区内の小中学生や住民、利用者を対象として、哲学などの学習活動を行う。			事務室	約 78 ㎡	公園管理と資料館管理の共用事務室。		
		学習室2	約 29 ㎡	公園や展示に関する学習活動や会議等を行う。			給湯室	約 4 ㎡	事務室付属		
		学習準備室	約 15 ㎡	学習室の準備室。			更衣室	約 8 ㎡	事務室付属		
		控室	約 9 ㎡	講師等の控室。			EV	約 6 ㎡	一般用と業務用の共用。		
		図書資料閲覧室	約 34 ㎡	公園や哲学に関係した図書を収納する書架を設置する。 自由に閲覧できるスペース。			倉庫3	約 5 ㎡	事務室付属		
		廊下・階段・PS等	約 66 ㎡				廊下・階段・PS・EPS等	約 36 ㎡			
		倉庫4	約 5 ㎡	会議室、事務室等の諸品倉庫。			スタッフルーム	約 7 ㎡			
		トイレ	約 32 ㎡	誰でもトイレを設置。			廊下	約 13 ㎡			
	1階	展示資料室(1・2)	約 183 ㎡	哲学堂公園や哲学に関する資料の展示を行う。		1階	運動玄関	約 27 ㎡	公園施設利用者(主に運動施設)の玄関。	1階	679 ㎡
		映像資料室	約 35 ㎡	哲学堂公園や哲学に関する映像の観賞を行う。			更衣室	約 60 ㎡	運動施設利用者用の更衣室。 シャワールーム(車いす用男女各1)を併設。		
		収蔵室	約 56 ㎡	展示資料の保管を行う。			倉庫1	約 4 ㎡	公園管理用品倉庫。		
		前室	約 10 ㎡	展示資料等の運び入れ、準備などを行う。			倉庫2	約 7 ㎡	公園管理用品倉庫。		
		エントランスホール (受付含む)	約 80 ㎡	メインエントランスとして、2階吹き抜けとした空間とする。 利用者の人だまりとしてゆとりのある規模。 展示施設への誘導、近隣の観光案内等も行う。			授乳スペース	約 4 ㎡	1階に設置。		
		ラウンジ	約 57 ㎡	利用者の休憩スペース。 売店の設置により利便性を図る。 前庭と視覚的に連続した空間とする。			EV	約 6 ㎡	一般用と業務用の共用。		
		風除室	約 12 ㎡				トイレ	約 32 ㎡	公園利用者と共用。誰でもトイレを設置。		
		設備機械室	約 26 ㎡				廊下	約 21 ㎡			
		廊下・PS等	約 24 ㎡				廊下・階段・PS・EPS等	約 35 ㎡			

用途別 床面積					合計面積	
公園資料館	各階合計面積	796 ㎡		公園管理事務所	各階合計面積	1,174 ㎡

